

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	平成27年2月12日
【四半期会計期間】	第12期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)
【会社名】	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社
【英訳名】	Human Metabolome Technologies, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 菅野 隆二
【本店の所在の場所】	山形県鶴岡市覚岸寺字水上246番地2
【電話番号】	(0235)-25-1447(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 村上 秀明
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区新川二丁目9番6号シュテルン中央ビル5階
【電話番号】	(03)-3551-2180(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 村上 秀明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第11期 第3四半期 連結累計期間	第12期 第3四半期 連結累計期間	第11期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	333,484	353,353	610,356
経常利益又は経常損失 () (千円)	101,691	209,525	5,962
当期純利益又は四半期純損失 () (千円)	103,767	212,898	1,627
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	101,456	209,785	3,876
純資産額 (千円)	1,225,075	1,390,343	1,548,137
総資産額 (千円)	1,495,846	1,610,800	1,759,329
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 () (円)	26.53	40.47	0.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	0.34
自己資本比率 (%)	81.9	86.3	88.0

回次	第11期 第3四半期 連結会計期間	第12期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	10.84	14.70

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第11期第3四半期連結累計期間及び第12期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
4. 当社は、平成25年10月16日付で普通株式1株につき300株の割合で株式分割を行いました。第11期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
5. 第12期第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により126,300株の新株発行を行っております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期会計期間末現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善傾向が続いたものの、消費者マインドの低下や円安の進行に伴う輸入原材料や製品価格の上昇が懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移し、海外景気の下振れなども国内経済を下押しする懸念材料となっています。

当社が属するライフサイエンス業界においては、遺伝子解析分野での事業提携や買収が行われ、個別化医療や予防医療の実現に向けた取り組みが活発になっております。また、労働安全衛生法の一部改正によるストレスチェック義務化に向け、法人向けのストレス診断支援サービスが増加する等、メンタルヘルス対策への関心が高まっています。

このような状況の中、当社グループはセミナーやキャンペーンを中心に積極的な販促活動を継続的に展開した他、大うつ病性障害及び肝疾患のバイオマーカーを活用した臨床検査法の開発を進めるとともに、営業体制や経営管理体制の強化に努めてまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は353,353千円（前年同期比6.0%増）、営業損失は224,319千円（前年同期は113,801千円の営業損失）、経常損失は209,525千円（前年同期は101,691千円の経常損失）、四半期純損失は212,898千円（前年同期は103,767千円の四半期純損失）となりました。

セグメントの状況を示すと、次のとおりであります。

メタボローム解析事業

営業担当者の増員や研究員による支援活動を効果的に活用する等の営業体制強化に取り組んだ他、セミナー等を88回開催し医薬分野での販促に注力しました。この結果、売上高は272,166千円（前年同期比2.1%増）、セグメント利益は91,500千円（前年同期比31.6%減）となりました。

なお、当社グループのメタボローム解析事業は、季節的な要因として多くの顧客の年度末にあたる当社第4四半期連結会計期間に売上高、利益ともに大きくなる傾向にあります。

バイオマーカー事業

大うつ病性障害のバイオマーカー開発においては、体外診断用医薬品の実用化に向けた開発が概ね計画どおり進捗し、臨床検査試薬の仕様書をまとめました。また、独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）からの助成金を活用した肝疾患のバイオマーカー開発への取り組みを継続しました。この結果、売上高は7,530千円（前年同期比19.7%減）、セグメント損失は63,134千円（前年同期は38,390千円のセグメント損失）となりました。

メタボロミクスキット事業

大学向けにメタボロミクスキットを3システム販売した他、試薬や限外ろ過フィルターの販売が堅調に推移した結果、売上高は38,774千円（前年同期比83.2%増）、セグメント利益は12,831千円（前年同期は1,493千円のセグメント損失）となりました。

人材派遣事業

大学向けに研究者、技術者等を派遣し、売上高は34,882千円（前年同期比4.3%減）、セグメント利益は555千円（前年同期比76.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,451,365千円となり、前連結会計年度末に比べ205,374千円減少しました。これは、現金及び預金が50,313千円増加したものの、有価証券が199,785千円、売掛金が74,772千円減少したこと等によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は159,435千円となり、前連結会計年度末に比べ56,846千円増加しました。これは、工具、器具及び備品が75,286千円、リース資産が30,581千円増加し、有形固定資産の減価償却累計額が44,329千円増加したこと等によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は163,749千円となり、前連結会計年度末に比べ17,794千円増加しました。これは、短期借入金が20,000千円、1年内返済予定の長期借入金が30,000千円減少したものの、その他に含め表示している前受金等が増加したこと等によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は56,707千円となり、前連結会計年度末に比べ8,528千円減少しました。これは、長期借入金が11,360千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は1,390,343千円となり、前連結会計年度末に比べ157,794千円減少しました。これは、新株予約権の行使により資本金が26,028千円、資本剰余金が25,963千円増加したものの、四半期純損失212,898千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費は、89,134千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産、仕入、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、以下のとおり生産、仕入、受注、受注残及び販売の実績が著しく増加しております。

メタボローム解析事業

受注残は、232,891千円となり、前連結会計年度末に比べ180,374千円増加(343.5%増)しました。これは、当事業の特性上、売上高の計上が第4四半期連結会計期間に増加し、当第3四半期連結会計期間末において受注残高が増加するためであります。

メタボロミクスキット事業

生産高10,407千円、仕入16,660千円、販売高38,774千円となり、前年同四半期と比べ著しく増加しました。これは大学向けにメタボロミクスキットや限外ろ過フィルター等の販売が増加したためであります。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しに重要な変更事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,299,300	5,299,300	東京証券取引所 (マザーズ市場)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
計	5,299,300	5,299,300		

(注) 提出日現在発行数には、平成27年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日 (注)	27,000	5,299,300	9,004	1,242,435	9,004	1,231,152

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,271,000	52,710	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,300		
発行済株式総数	5,272,300		
総株主の議決権		52,710	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役職の異動は次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役経営管理本部長	取締役管理本部長	村上 秀明	平成26年7月1日

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	909,366	959,679
売掛金	122,259	47,487
有価証券	600,019	400,234
商品	476	5,576
仕掛品	65	8,418
原材料及び貯蔵品	9,250	6,790
その他	15,428	23,182
貸倒引当金	126	4
流動資産合計	1,656,739	1,451,365
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,990	17,688
工具、器具及び備品	148,525	223,811
リース資産	90,986	121,567
減価償却累計額	170,358	214,688
有形固定資産合計	84,144	148,379
無形固定資産	6,602	5,403
投資その他の資産	11,842	5,652
固定資産合計	102,589	159,435
資産合計	1,759,329	1,610,800
負債の部		
流動負債		
買掛金	4	15
短期借入金	20,000	-
1年内返済予定の長期借入金	47,040	17,040
リース債務	14,337	19,413
未払法人税等	9,622	363
その他	54,951	126,917
流動負債合計	145,955	163,749
固定負債		
長期借入金	31,460	20,100
リース債務	23,243	21,282
繰延税金負債	608	1,253
資産除去債務	9,518	11,750
その他	404	2,321
固定負債合計	65,235	56,707
負債合計	211,191	220,457
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,216,407	1,242,435
資本剰余金	1,205,188	1,231,152
利益剰余金	880,475	1,093,374
株主資本合計	1,541,120	1,380,213
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	7,017	10,130
その他の包括利益累計額合計	7,017	10,130
純資産合計	1,548,137	1,390,343
負債純資産合計	1,759,329	1,610,800

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	333,484	353,353
売上原価	131,501	155,730
売上総利益	201,982	197,622
販売費及び一般管理費	315,783	421,941
営業損失()	113,801	224,319
営業外収益		
受取利息及び配当金	16	558
補助金収入	25,816	6,690
移転補償金	-	8,471
その他	1,284	716
営業外収益合計	27,117	16,437
営業外費用		
支払利息	2,266	1,360
株式交付費	12,741	282
営業外費用合計	15,007	1,642
経常損失()	101,691	209,525
税金等調整前四半期純損失()	101,691	209,525
法人税、住民税及び事業税	2,225	2,728
法人税等調整額	149	644
法人税等合計	2,076	3,373
少数株主損益調整前四半期純損失()	103,767	212,898
四半期純損失()	103,767	212,898

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	103,767	212,898
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2,310	3,112
その他の包括利益合計	2,310	3,112
四半期包括利益	101,456	209,785
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	101,456	209,785
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

当社グループの主要な事業であるメタボローム解析事業は、季節的な要因として多くの顧客の年度末にあたる当社第4四半期連結会計期間に売上高、利益ともに大きくなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	26,889千円	50,578千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成25年12月23日を払込期日とする有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)による新株式発行850,000株(発行価格1,400円、引受価額1,288円、資本組入額644円)により資本金及び資本準備金がそれぞれ547,400千円増加しております。

また、新株予約権の権利行使により、当第3四半期連結会計期間において資本金が27,848千円、資本剰余金が27,713千円増加し、この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,106,248千円、資本剰余金が1,095,113千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	メタボローム 解析事業	バイオマーカー 事業	メタボロミクス キット事業	人材派遣事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	266,487	9,375	21,169	36,452	333,484
セグメント間の内部売上高 又は振替高	259	-	-	-	259
計	266,747	9,375	21,169	36,452	333,744
セグメント利益又は損失 ()	133,729	38,390	1,493	2,364	96,209

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	金額
報告セグメント計	333,744
セグメント間取引消去	259
四半期連結損益計算書の売上高	333,484

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	96,209
セグメント間取引消去	1
全社費用(注)	210,008
四半期連結損益計算書の営業損失()	113,801

(注) セグメント利益の全社費用 210,008千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	メタボローム 解析事業	バイオマーカー 事業	メタボロミクス キット事業	人材派遣事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	272,166	7,530	38,774	34,882	353,353
セグメント間の内部売上高 又は振替高	279	-	128	-	407
計	272,445	7,530	38,903	34,882	353,760
セグメント利益又は損失 ()	91,500	63,134	12,831	555	41,753

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	金額
報告セグメント計	353,760
セグメント間取引消去	407
四半期連結損益計算書の売上高	353,353

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	41,753
セグメント間取引消去	6
全社費用(注)	266,078
四半期連結損益計算書の営業損失()	224,319

(注) セグメント利益の全社費用 266,078千円は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	26円53銭	40円47銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	103,767	212,898
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	103,767	212,898
普通株式の期中平均株式数(株)	3,910,398	5,260,091
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2. 当社は、平成25年10月16日付で株式1株につき300株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月5日

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 片岡久依印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勢志元印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。